

KSKP NPO法人 障害者情報ネットワーク尼崎 広報誌

明日のために



2005. 8. 21 No. 5

地域移動講座とホームページ設置支援をすすめます

広瀬 徹

本年度の総会で決まりました事業計画に従いまして2つの事業を進展させます。

ひとつは、昨年 11 月より小田地区会館で始めた地域移動パソコン講座を 9 月から、園田公民館、立花公民館、武庫地区会館で始めます。

6 月から始めました「コンピュータ教室の講師養成講座」には5人の受講者があり、地域講座への助手として派遣できることとなりました。

これまでの 100 名近い受講者は、パソコン教室会場である身障会館(稲葉荘)の近くの大庄地区(33%)、武庫地区(20%)、本庁地区(14%)で7割近くを占め、園田、小田、立花地区は参加者が少数でした。

「通うのに稲葉荘は遠すぎる、近くで開いてもらえないでしょうか」という希望を今まで何回も聞いていました。

昨 9 月、(財)木口ひょうご地域振興財団とひょうごんテックリユースパソコン寄贈プログラムより合計5台のノートパソコンの寄贈を受けたことで、地域の公民館に5台のノートパソコンを運んでパソコン講座を開くことができるようになりました。

募集要項は5ページに掲載してあります。このニュースを受け取られた方、また障害者の仲間でパソコンを習いたいという方に来ていただければ幸いです。

2つめの事業は、市内障害者団体・作業所のホームページ設置支援事業です。

兵庫県阪神南県民局所管の「平成 17 年度阪神南地域づくり活動応援事業」に「情報発信のための障害者団体・作業所のホームページづくり事業」への助成金 30 万円を申請していましたが 7 月 27 日に「交付する」との知らせが届きました。

市内 100 ほどの障害者団体・作業所の中でホームページを持っているのはその 2、3 割です。今の時代、公的な広報手段としてホームページからの情報発信は一般的なものになっています。

この助成金のおかげで、今年度 10 団体、1 団体 1 万円の費用分担でホームページが作成できる見込みが立ちました。

各団体にメールやファックスで案内していますが、5ページの募集要項を参考にぜひお申し込みください。ホームページ維持のための担当者の技術指導もいたします。

NPO法人 2005年度総会が開かれました

2003年7月22日にNPO法人として認証されて以来の2年目の2004年度事業を振り返り、次期2005年度の事業計画・予算を討議するための総会が、4月23日、身障会館で開かれ、いろいろな事業について討議がかわされ、新しい取り組みが決定されました。

<2004年度事業報告>

1. コンピュータ教室開催事業

1. ホームページ作成教室 (講師: 広瀬 徹)				
	開始日	回数	受講者	延べ人数
第1回	6月13日	8	4	32
2. 「パソコン入門教室」(講師: 橋本一人)				
第1回	6月7日	4	3	12
第2回	9月20日	8	2	16
3. 「パソコン初級教室」(講師: 高尾絹枝)				
第1回	6月24日	8	3	24
第2回	9月10日	8	4	32
第3回	3月18日	4	4	16
4. ワープロ中級教室 (講師: 広瀬 徹)				
第1回	3月26日	4	5	20
5. 視覚障害者キーボード入力教室 (講師: 安藤和男、広部景子)				
第1回	4月20日	4	3	12
第2回	6月15日	4	5	20
第3回	9月14日	4	5	20
第4回	3月29日	4	5	20
6. 聴覚障害者パソコン教室 (講師: 奥山洋介、寺岡 睦)				
第1回	9月19日	8	3	24
7. 地域パソコン教室 (小田地区会館) (講師: 橋本一人)				
第1回	11月29日	4	4	16
第2回	3月14日	4	5	20
合計延べ開催回数		76	55	284

NPO法人としての活動が2年目に入り、計画していたコンピュータ教室開催事業などの特定非営利活動に係る事業がかなり定着しました。

特に2004年度は助成事業申請が実り、ノートパソコン5台が購入・配備できました。それにより、念願でした「地域パソコン教室」が開催できるようになり、11月と3月に2回

の「小田地区パソコン講座」を開きました。

入門から中級まで含めて76回の教室を開き、受講者は述べ284名となりました。市報あまがさき掲載による広報も定着しました。ただ、定員5名を超えないときも出始め、これまで募集すれば2倍近い申し込みがあった昨年度までとは違った様子があり、パソコンやインターネットを使えるようになりたいという潜在する障害者の希望にこたえられるよう、地域教室を多く開き、障害者にとって通いやすい会場設定が必要になってきました。

2. 法人設立・運営に関する支援事業

本年度、生活復興県民ネットより「地域活動推進講座助成事業」として、3回の地域講座の開催費用が助成され、9月より「NPO活動実践講座」を開きました。

「市内NPO交流会(30団体ほど参加)」に回り、11のNPO法人および尼崎市協働参画課の協力を受け、当法人が主催し、合計11の団体が、その生い立ちや活動の現状、事業の難しいところ、経理などの実情を話しました。NPO法人として活動を開始してよかったという実感など、参加者に大いに元気を生み出すものとなりました。

席上、新潟県中越地震災害支援が呼びかけられ、義援金合計13,050円が集まり、すぐに新潟県災害対策本部へ送りました。

3. 障害者福祉に関する情報発信事業

今年度3回の広報誌「明日のために」の発刊を行いました。500~600通、尼崎市民を中心に送付し、コンピュータ事情、インターネット情報、支援費などの福祉情報を掲載しました。読者からも賛助会員として送金くださる方が増え、今年度8名を数えました。

<2004 年度決算報告>

2004 年度特定非営利活動に係る事業会計収支計算書

2004 年 4 月 1 日から 2005 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人障害者情報ネットワーク尼崎

科目	金額	科目	金額
I 経常収入の部		II 経常支出の部	
1 会費収入		1 事業費	
正会員	16,000	コンピュータ教室開催事業	1,082,811
個人賛助会員	17,000	ホームページ開設・運営支援事業	0
団体賛助会員	0	法人設立・運営に関する支援事業	133,793
2 事業収入		障害者福祉に関する情報発信事業	86,062
コンピュータ教室開催事業	156,000	2 管理費	
ホームページ開設・運営支援事業	0	事務人件費	0
法人設立・運営に関する支援事業	16,000	通信費	7,110
障害者福祉に関する情報発信事業	0	消耗品費	8,460
3 寄付金・補助金収入		書籍購入費	1,500
寄付金収入	24,000	機器運搬費	0
謝金収入	13,800	会議費	3,500
助成金収入 (共通運営)	150,000	雑費	1,813
助成金収入 (コンピュータ地域教室)	680,000		
助成金収入 (コンピュータ機器整備)	160,000		
助成金収入 (NPO法人講座開催)	90,000		
経常収入合計	1,322,800	経常支出合計	1,325,049
当期収支差額	-2,249		
前期繰越正味財産額	29,759		
当期正味財産合計	27,510		

<収入>

会費収入 **33,000 (2%)**、事業収入 **172,000 (13%)**、寄付助成金収入 **111 万円 (85%)** という割合です。助成金収入はパソコン購入や機器整備など事業目的に使われますが、今年度、ひょうごボランティア基金および(財)阪神・淡路大震災復興基金よりの「NPOパワーアップ事業助成」による **15 万円** の助成金は、組織強化のための使用が認められており、共通管理費及び、毎年赤字となります「障害者福祉に関する情報発信事業」にまわすことができ、本年度の収支をкаろうじて保つことができました。

<支出>

支出の**98%**が特定非営利活動にかかわる事業支出となっています。

コンピュータ教室開催事業支出 **108 万円** の内訳は、コンピュータ本体購入 **49 万円**、コンピュータソフト購入 **13 万円**、機器部品購入 **30 万円**、講師交通費 **12 万円**、消耗品通信費 **4 万円** となっています。

コンピュータ教室開催という性格上、機器の購入、ソフトの購入は事業として毎年必要な支出です。この裏づけをどのように安定的に確保するかが今後の問題です。

常時開いている事務所確保、その維持費用捻出も智恵を出して取り組む課題です。

<2005年度事業計画>

特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施予定日時	実施予定場所	従事者の予定人数	受益対象者の範囲及び予定人数	支出見込み額(千円)
コンピュータ教室開催事業	入門・初級・中級・インターネット教室開催/地域教室4箇所	月・火・木・金・土・日/随時	尼崎市立身体障害者福祉会館/地区会館	8名	尼崎の障害者市民延べ約600人	432
コンピュータ機器設置支援事業	在宅・作業所のコンピュータの初期設定・インターネット接続作業	随時	障害者自宅・作業所	3名	尼崎の障害者市民延べ約24人	72
ホームページ開設・運営支援事業	ホームページ開設作業/機器調整作業	随時	障害者自宅・作業所	1名	尼崎の障害者市民・作業所延べ約10人	240
法人設立・運営に関する支援事業	法人化講座開催	土・日曜	尼崎市立身体障害者福祉会館	2名	尼崎の障害者市民延べ約20人	20
障害者福祉に関する情報発信事業	ホームページ・広報誌による福祉情報の発信	随時/年4回	尼崎市立身体障害者福祉会館	17名	尼崎市民約1000世帯	86

(1) コンピュータ教室開催事業

従来の入門・初級・中級・視覚障害者・聴覚障害者コンピュータ教室の開催に加えて、知的障害者コンピュータ教室、及び地域教室を小田地区、園田地区、立花地区、武庫地区で実施します。

さらに本年度はインターネット教室、コンピュータ教室講師養成講座を開催します。

コンピュータ教室講師養成講座については、テキストを統一し、これまでの受講生に呼びかけ、地域公民館などで開く教室の講師となる希望者を募集します。

視覚・聴覚・知的障害者コンピュータ教室については、障害ごとに教材や機器を工夫し

て、障害者当事者または関係者が講師として複数で当たることとなりました。

(2) コンピュータ機器設置支援事業

在宅・作業所のコンピュータの初期設定・インターネット接続作業を訪問支援する事業を本格化します。

費用については1回2時間3000円を交通費として利用者が負担していただき、法人の郵便講座へ振り込んでもらうことと決定しました。

(3) ホームページ開設・運営支援事業

昨年度より2つのNPO法人のホームページ開設を作業中でしたが、5月に完了しました。さらに依頼が広がると予測できます。

この事業について助成金を申請し、採用となれば格安で市内の障害者作業所・団体のホームページの開設を呼びかけることができます。

(4) 法人設立・運営に関する支援事業

市内の約 30 の NPO 法人の集まる「NPO 交流会 in 尼崎」に参加し、法人設立・運営に関する支援・広報を実施していきます。

協同して NPO 講座や財務研修、及び「白いボン運動」などの NPO 基金運動に参加します。

(5) 障害者福祉に関する情報発信事業

ホームページを維持・充実し、年 4 回の広報誌発刊を続けます。

障害者の側から地域自治への参加・提言発信の時機となっています。

「兵庫県阪神南県民局」所管の「第 3 期阪神南地域ビジョン委員」への参加、社団法人尼崎青年会議所の提唱による「8/28 あまがさきまつり」「まちづくり会議」へ参加し、当法人の担うべき地域活動への道筋を探ることが総会で承認決定されました。

地域パソコン講座募集 & ホームページ作成を支援します

地域パソコン初級講座を開きます

通いやすい地域の公民館・地区会館を申し込みました。以後、何回か開く予定ですが、今回は次の 4 地区で開きます。

<日程>

- | | |
|---------|--------------|
| ①小田地区会館 | 9 / 5 (月) より |
| ②武庫地区会館 | 9 / 6 (火) より |
| ③立花公民館 | 9 / 7 (水) より |
| ④園田公民館 | 9 / 2 (金) より |

いずれも同じ曜日に続けて 4 回 (祝日をのぞく)、時間は 2 時～4 時、教材費は 4 回分 **3000 円** です。

地区会館と公民館は場所が違いますからよく確かめてください。電話をいただければお伝えします。

内容は、パソコン初級の方を対象に、ワープロ入門からはがき作成までを行います。

対象は、市内在住の身体、内部、知的、精神障害者です。定員は各講座 5 人で、申し込み多数の場合は、抽選とします。

申し込み締め切りは、**8 月 31 日**

申し込み方法：電話 **6418-2120**

その他、ファックス **6418-1342**

ホームページを作りませんか

対象：尼崎市内の障害者作業所・団体

募集：**10 ヶ所**

作業所・団体の分担費用：**10,000 円**

(作成にあたる作業者の交通費などは助成事業より補助します。)

申し込み：

作成支援を希望する作業所・団体は

作業所・団体名

所在地住所

連絡担当者名

電話番号

ファックス番号

メールアドレス

簡単な自己紹介

作成後、改訂維持に当たる予定者名を書いて、ファックスまたはメールで申し込んでください。

申し込み締め切り：**9 月 30 日**

申し込みが **10 ヶ所** をこえましたら抽選。

兵庫県阪神南県民局所管の「平成 17 年度阪神南地域づくり活動応援事業」より今年度 **30 万円** の助成が出ることとなり、**10 月** より作成に取りかかります。

ぜひ応募してください。

視覚障害者教室が 5 回開かれました

視覚障害者教室は、2004 年 4 月より始まり 2005 年 7 月までに 5 回の教室を開きました。安藤和男さんと広部景子さんが講師を続けてくれています。

当初は、キーボードを頭の中に入れるためのアルファベットのキー配列の練習から始めました。続いてワープロソフト「ワード」をつかったローマ字入力の練習、日本語変換、編集を学びました。

今回の 7 月からは、身障会館事務室に管理者である尼崎市身体障害者連盟福祉協会がケーブルテレビ回線によりブロードバンドインターネット回線を設置しましたので、使用願いを出して、会議室へ LAN を引き、教室の内容として、インターネットメールの練習、インターネット検索の方法を学びました。

前からメールの学習の希望は出ていまして、初めてメールのやり取りができ、とても喜んでいただきました。

<講師の広部さんの感想>

- ・広い方の会議室でゆったりとできましたが、音声がでるので 4, 5 人が適当と思われます。
- ・ノートパソコンを使っている人で、手前のマウスパッドに触れて画面がよく動いてしまう人があるので、上に硬い紙を張っておこうと思います。
- ・ノートパソコンの本体マウスへの接触防止用パット 5 枚を購入し、さっそく使用しています。着脱が簡単でミスタッチのトラブルもなくなりスムーズに講座が進められました。

<パソコン教室を経験して思うこと>

講師：安藤和男

何度か講座をするなかで、受講者のレベルがあがってくるとともに私自身のレベルも、あがってきたと思っています。

そこで受講された人たちに感想や意見を、聞いてみました。

- ・なかなかキーの位置が、覚えられなくて苦労したが何とかゆっくりではあるが、ローマ字入力で文章が、かけるようになってきました。

- ・あとどのくらい勉強したらマスターできるのか。

- ・インターネットに接続するにはどうしたらよいか。

- ・メールの交換はどうしたらよいか。

- ・パソコンを購入したいがどんなものがよいか。

- ・スクリーンリーダーはどこで購入できるのか。

などなど多くの意見が寄せられました。

これらの意見を大切に、一つ一つ解決してゆき、パソコン人口を増やしていきたいと思います。

----- 私のつぶやき -----

講習のテキストを、もっと充実させて、エクセルで住所管理や宛名印刷、そしてワードなどで文書作成や印刷などが、よりわかりやすいテキストをつくっていききたいと思います。



インターネット接続の 5 台のノートパソコン

知的障害者教室をはじめて開きました

2005 年 7 月 9 日より毎週土曜日 2 時から 4 時まで合計 4 回、身障会館で「知的障害者コンピュータ教室」を初めて開きました。定員を 3 名としてきめ細かい指導をしていただきました。

知的障害者のパソコン教室を担当して 伊東 勇

知的障害者のみなさんには、みのり園で 3 年間パソコンを指導してきましたが、みのり園とは違い、4 日間だけの短期間の指導だったのと、受講者のパソコンの経験に差があったので、指導していく上の難しさもありました。

1 日目は、各自のパソコンの経験度合を知るため、ワードを使って、文集を作り、文字の大きさや色を変えたりしました。最後にインターネットを使いました。

「JR 尼崎から JR を使って AM10 時までに岡山の倉敷駅に着きたい」その時の行き方と運賃を調べて下さい、という課題を出しました。比較的簡単に出来る人、苦勞をしている人、しかし、最後は 3 名共うまく出せました。

2 日目は、ワードで暑中見舞いを作りました。文字を入力して、文字の大きさと色を変えました。そして、事前に用意をしていたスイカやカブトムシやひまわりなどの写真や図案の中から自分が気に入ったものをよびこみ、張り付けて、大きさを調整して出来上がりま

した。そして、官製ハガキにプリンターで打ち出しました。

「やったー！」と歓声があがりました。そして、写真などを入れ替えて各自 5～6 枚を仕上げました。

3 日目は、エクセルを使って、表計算とグラフ作りをする人とワードを使って文書を入力する人に分かれてやりました。出来あつたものをプリンターで打ち出しました。

4 日目は、最後の日になりました。ワードを使ってカレンダーを作りました。まず、罫線と曜日と数字を入力して、インターネットを使って好きな写真などを探して、それをよびこみ、自分だけのカレンダーが出来上がりました。プリンターで打ち出しました。

この 4 日間 真面目に取り組んでいた 3 名のみなさん本当にありがとうございました。

高等部 3 年生の 2 人の方は、これから進路先見つけるための実習にがんばってください。

すでに働いてがんばっている人もお元気で過ごして下さい。

暑中お見舞い申し上げます



NPO 法人 障害者情報ネットワーク尼崎。

身障会館でインターネットが使えるようになりました

2005 年 4 月より身障会館にインターネット回線が引かれ、会長より使用の許可が出ましたので、6 月 9 日より「インターネット初級教室」「インターネット中級教室」を開きました。

受講生の皆さんの感想を紹介します。

<挑戦インターネット> 松永 務

私は現在 75 歳。障害者手帳を貰って丁度 5 年。頭の老化防止にはこれが一番と決め付けて、昨年末頃に買い替えた新しいパソコンに向かって毎日の様に向かい合っているが、これがとても賢い奴で特にインターネットとかになると中々言うことを聞かない。ではこちらも負けておれんとの思いで、やっとかよったパソコン教室（インターネット中級）が昨日ようやく終わった。と言っても週 1 回 × 2 時間 × 4 回のコース。私の方からお願いして入れてもらった教室だからやっとなどと言うのは誠に先生に申し訳ないと思うが何故こんな事が出来るのかと驚きもするが、楽しみの反面結構疲れもするものだ。

パソコン 5 台に生徒が 5 人、全員身体障害者。教室は身体障害者福祉会館、費用は 4 回で 3 千円と極めて安い。教えて下さる H 先生も無論障害を持っておられるが、何処で何時の間にこれだけ勉強されたのかその努力に敬服すると共に、一度蟹味噌ならぬ先生の頭の中の脳味噌を見せて頂きたいものだと思ったりする。

教室でのテーマは検索の技術に始まって、インターネットの仕組み、メール技術、ブログ入門迄懇切丁寧に教えて下さるが、私の方は至って不熱心で、成る程こんな事が出来るのかフーン、フーンと感心するばかりで一向に覚えこもうとはしない上、先生が十年以上もかかってマスターされたものを 8 時間やそこらで覚えられるかと頭の片隅で悪魔が囁き

出す始末。

その上宿題で文章に気に入りの写真を貼り付けてメールを送って下さいとかで悪戦苦闘。やっとな出来上がり、メールにして送り、ハイ着きましたと返事があった時は、ホットする思いと感心ばかりしていないで、やれば出来るという嬉しさに浸れる。

学生時代、一夜漬けの試験勉強で、ギリギリの合格点をもってそれで自己満足していた頃の思い出が頭をよぎる。

これからも頭だけはフル回転させようと自らにハッパをかけつつ、今日も又パソコンとの睨み合いが続く。

<インターネット初級教室の感想 (1) >

メールは不安ですが、宛先がちゃんと出ていましたので送ってみます。

テキストのアドレスは長くて難しかったですが、画面が出た時は嬉しかったです。教室での様子が写っているのでびっくりしました。真剣にやっていますね。

ルーブル美術館の公式のホームページを見ることが出来て幸せです。フランス語はわからなくても、色々探しているうちに好きな絵が画面いっぱいに出てきたりして、楽しいものです。

インターネットを使うことで不自由なことが結構解消できそうです。美術館だけでなく、色々な情報を得ることは、私の暮らしの役に立ち、気持にも余裕が出てくるのではと思います。

<インターネット初級教室の感想(2)>

この度、インターネット初級教室に、参加させて頂き、お世話に成り有り難うございました。私は覚えが悪く、難しかったです、インターネット、の事が少しでも分かり本当に参加させて頂いて良かったです。此れからも宜しく願いいたします。

<インターネット初級教室の感想(3)>

1回～4回はあっという間に終わりました。

私の生活に必要なことを教えていただき、有難うございました。

1回～2回で習ったことは、私の不自由な手や足の手助けをしてくれます。サイトを上手に使って、毎日の暮らしに役立たせます。

メールは、エラーが出るとドキッとして嫌でしたが、2週にわたって教えていただいたので、今は、やる気になっています。

今までは、ウィルスのことなど知らないでクリックしていたんですが、テキストの例題を頭にいれて、インターネットを使っていきます。

わからないことはメールしますので、今後ともよろしく願います。

<インターネット初級教室の感想(4)>

こんにちは。昨日はありがとうございました。飲み込みが悪く四苦八苦でした。

分かったつもりでしたが、改めて家でやってみたら又忘れていました。昨日習った通り思い出しながらやっと出てきました。

先生が汗だくになりながら教えて下さいますのに出来の悪い生徒で申し訳ございません。

来週あと1回で残念ですがよろしく願います。

<インターネット中級講座の感想>

4回の講習及び以前中級講座を受講させて

頂きましたので、私の能力は大体お分かりのことと存じます。

私自身コンピューターを使用して約15年になりますが、両手が不自由なのに会社勤めができ、文字を書くことが出来たのもコンピューターのおかげと感謝していますが、WORD及びEXCEL以外あまり使用したことが無く、メールも特に親しくメールを遣り取りする人も無かったので、深く関わることも有りませんでした。

インターネットも旅行の時交通機関の時間を調べたり、行き先の情報を調べるぐらいで、たまにしか使用しておりません、ウイルス対策も致しておりません、あまり必要さも感じておりませんでした。

これくらいの知識で、何か役に立つような事があれば時間の許す限り協力させて頂きます。今後とも宜しくご指導ください。

「パソコン教室講師の養成講座」を受けて

町田久美子

初めて参加した「講師養成講座」の感想…。

やはりいろんな角度から、いろんな方法で教えていかなければと感じました。そのためには、自分自身がいろんなやり方を全て知っておいた上で、取捨選択という形になるのでは…と。

個人的には、車椅子上では特に「腕の可動範囲がほとんどなくなる」ため、マウスを使うのに苦労しました。トラックパッドの設定が出来るはずなのですが、きっとどこかにあったはずなのですが…。

まだまだ勉強しなければトラブル対処には到底及ばないと、改めて思いました。

今週は私的に週の半分以上をガイヘルで使って体力的に少々不安でしたが、来週からは少し体力も戻せそうなスケジュールなので、引き続き頑張って受講したいと思います。

論説：障害者自立支援法をめぐって

広瀬 徹

1. 8月8日、衆議院解散を受けて参議院厚生労働委員会で審議中であった「障害者自立支援法案」が廃案となりました。

この法案には、これまでばらばらだった障害者福祉施策の統合・体系化を図ること、精神障害者の施策への組み入れ、障害者雇用の充実などがうたわれていました。

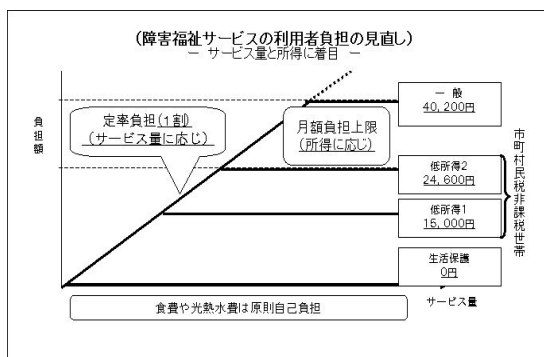
しかし同時に、このままでは財政的破綻におちいるとみる支援費制度を立て直し、福祉施策全般の税金負担を減らすための、障害者当事者、家族への負担増加、ガイドヘルパー・手話通訳派遣事業などの市町村への事業委託が盛り込まれていました。

しかもそれには、障害者全員に対する1割負担、障害者当事者が負担に耐えないときは生計を同じくする親兄弟への負担が明文化されました。さらに具体的な実施要綱は、そのほとんどが厚生労働省の条例で「後に定める」というものでした。

障害者の高負担にならないよう配慮する、と答弁があっても実際のところどの程度になるのかは、条例が交付されてはじめてわかるという不透明なものでした。

2. したがってこの法案が突如示された1月25日には、ほとんどの団体が疑問符を投げかけました。全国各地で、尼崎でもたくさんの「障害者自立支援法についての学習会」が開かれました。しかし学習すればするほど、掲げる理念と障害者高負担とのギャップ、ほとんどの実際が法案だけではわからない、厚生省の資料によると～になりそうだ・・・、という不安だけが募る結果でした。

たとえば実際の障害者負担はどうなっていくのかという問いには、いつも厚生労働省配布資料から次の図が使われています。



本当に実施時の負担上限は 40,200 円なのか? 将来その上限は上がることはないのか? 低所得層の所得はいくらぐらいを想定しているのか? という切実な問いには、厚生労働省企画官すら答えられませんでした (2005 年 4 月 24 日兵庫県集會)。まして学習会に来てもらった自治体の障害福祉担当者は、「通達がきてみないことにはわからない」というのが本音のところでした。

3. 法案審議のわずか1ヶ月前に示されたこの「障害者自立支援法案」は全国の障害者当事者・家族・関係者に大きな不安を呼びました。

中央では6月24日には、日本身体障害者団体連合会、日本障害者協議会、DPI 日本会議、日本盲人会連合、全日本聾唖連盟、全国脊髄損傷者連合会、全日本手をつなぐ育成会、全国精神障害者家族会連合会による共同声明が出され、

「障害のある人の地域生活の確立のために、真摯な協議を継続され、障害当事者に納得のできる結論を出されること」が強く求められました。

しかし衆議院での原案可決が予測される6月末、対応は二つに分かれました。「支援費制度の財政破綻に対する緊急措置であり、原案の修正と運用上の配慮、政令・省令等の内容へ期待しながら、予算関係法案として、廃案にはできない」とする考えと「自立を妨げる法案であり廃案とすべきだ」という意見に分かれました。

以後はふたつの行動がとられ、2月23日から7月13日まで衆議院厚生労働委員会での参考人意見陳述などを経た討議がなされ、賛成多数で可決、7月15日衆議院本会議可決、参議院へ法案送付、となっていました。

改めてその賛否両論が参議院厚生労働委員会で開催されようとした矢先、郵政民営化法案参議院否決によって、委員会で「廃案」とすることで同意され、現在、障害者自立支援法案は廃案となっています。

このとき不透明のまま可決された衆議院厚生労働委員会にあって、異例ともいえる11項目にわたる付帯決議の文章が、法案の欠落部分を雄弁に物語っているように見えます。

障害者自立支援法案に対する附帯決議 (要旨)

政府は、本法の施行に当たり、次の事項について適切な措置を講ずるべきである。

一 障害者の範囲の検討については、障害者などの福祉に関する他の法律の施行状況を踏まえ、発達障害・難病などを含め、サービスを必要とするすべての障害者が適切に利用できる普遍的な仕組みにするよう検討を行うこと。

二 就労の支援も含め、障害者の生活の安定を図ることを目的とし、社会保障に関する制度全般についての一体的な見直しと併せて、障害者の所得の確保に係る施策の在り方の検討を速やかに開始し、三年以内にその結論を得ること。

三 障害福祉サービス及び自立支援医療の自己負担の上限を決める際の所得の認定に当たっては、障害者自立の観点から、税制及び医療保険において親・子・兄弟の被扶養者でない場合には、生計を一にする世帯の所得ではなく、障害者本人及び配偶者の所得に基づくことも選択可能な仕組みとすること。また、今回設けられる負担軽減の措置が必要な者に確実に適用されるよう、障害者及び障害児の保護者に周知徹底すること。

四 市町村の審査会は、障害者の実情に通じた者が委員として選ばれるようにすること。特に障害保健福祉の学識経験を有する者であって、中立かつ公正な立場で審査が行える者であれば、障害者を委員に加えることが望ましいことを市町村に周知すること。また、市町村が支給決定を行うに当たっては、障害者の実情がよりよく反映されたものとなるよう、市町村職員による面接調査の結果や福祉サービスの利用に関する意向を十分踏まえるとともに、不服があ

る場合には都道府県知事に申立てを行い、自ら意見を述べる機会が与えられることを障害者及び障害児の保護者に十分周知すること。

五 国及び地方自治体は、障害者が居住する地域において、円滑にサービスを利用できるよう、サービス提供体制の整備を図ることを障害福祉計画に十分に盛り込むとともに、地域生活支援事業として位置付けられる移動支援事業、コミュニケーション支援事業、相談支援事業、地域活動支援センター事業などについては、障害者の社会参加と自立生活を維持、向上することを目的として、障害福祉計画の中に地域の実情に応じてこれらサービスの数値目標を記載することとともに、これらの水準がこれまでの水準を下回らないための十分な予算の確保を図ること。

六 自立支援医療については、医療上の必要性から継続的に相当額医療費負担が発生することを理由に、月ごとの利用者負担の上限を設ける者の範囲については、速やかに検討を進め、施行前において適切に対応するとともに、施行後も必要な見直しを図ること。自立支援医療のうち、児童の健全育成を目的としたものについては、その趣旨にかんがみ、施行までに利用者負担の適切な水準について十分検討すること。

七 精神病院におけるいわゆる七・二万人の社会的入院患者の解消を図るとともに、それらの者の地域における生活が円滑に行われるよう、必要な措置を講ずること。

八 居住支援サービスの実施に当たっては、サービスの質の確保を前提に、障害程度別に入居の振り分けが行われない仕組みや、重度障害者が入居可能なサービス基準の確保、グループホームの事業者の責任においてホームヘルパーの利用を可能とすることなどについて必要な措置を講ずること。

九 良質なサービスを提供する小規模作業所については、新たな障害福祉サービス体系において、その柔軟な機能が発揮出来るよう位置付けるとともに、新たな施設体系への移行がスムーズに行えるよう、必要な措置を講ずること。

十 障害者の虐待防止のための取組み、障害を理由とする差別禁止に係わる取組み、成年後見制度その他障害者の権利擁護のための取組みについて、より実効的なものとなるよう検討し必要な措置を講ずること。

十一 本法の施行状況の定期的な検証に資するため、本委員会の求めに応じ、施行後の状況、検討規定に係る進捗状況について、報告を行うこと。

お知らせ

<活動の記録>

2004/12、2005/2、4、/6

「第10～13回 NPO 交流会 in 尼崎」参加
尼崎市内NPO法人の情報交換、交流

2005/3/14 ～ 5/13

第3期コンピュータ教室開催事業開始
初級教室、中級教室、視覚障害者教室、
聴覚障害者教室、小田地区公民館講座

2005/3/29

NPO支援の大衆募金を提唱・実行して
きた「白いリボン運動実行委員会」より10
万円が助成されました。新しい運動として
総会で協力の提案。

2005/4/10 2005年度会計監査会・理事会

2005/4/23 2005年度定期総会

活動報告・会計報告承認。

2005年度事業計画・予算案が討議・決定。
インターネット教室など新事業承認。

2005/5/10

電子メール添付による「兵庫県電子申請
システム」で県知事へ事業報告書・収支
計算書などを提出。

2005/6/9 ～ 7/4

第4期コンピュータ教室開催事業開始
インターネット初級教室、
インターネット中級教室、
コンピュータ教室の講師養成講座、
ホームページ作成作業員養成講座

<編集後記>

福祉切り捨てがこれ以上続かないよう障害者・家族・親戚・友人の力を合わせましょう。

<現在のNPO法人会員>

正会員 18名

賛助会員 8名

<法人会員規定>

正会員 : 年会費 1,000円

賛助会員: 個人 年会費 一口1,000円

団体 年会費 一口5,000円

※ 自らのコンピュータ活用力を、障害者
の情報格差をなくす活動に生かすという趣
旨に賛同して頂ける個人、及び団体のみな
さま、ぜひ会員となってください。

<会費振込>

郵便振替: 00910-4-269867

銀行口座: 三井住友銀行 (普通)

立花 1528152

名義人: 特定非営利活動法人

障害者情報ネットワーク尼崎

<情報会員募集>

パソコン教室受講者や障害者のみなさん
へ情報会員を募ります。会費無料。

コンピュータ操作方法などわからないこ
とが出たら、電話・ファックス・電子メー
ル・携帯電話メールで質問を受け付けます。

連絡方法

電 話: 06-6418-2120

ファックス: 06-6418-1342

電子メール: amanet99@yahoo.co.jp

発行人: 関西障害者定期刊行物協会

大阪市城東区東中浜 2-10-13 緑橋グリーンハイツ 1F

編集人: NPO法人 障害者情報ネットワーク尼崎

所在地 尼崎市大庄北3丁目25番地1-104号

電話 06-6418-2120 ファックス 06-6418-1342

URL <http://amanetzh.web.infoseek.co.jp/>

編集責任者: 広瀬 徹

定価 100円